

6月の発生予報および防除上の注意事項

沖縄群島

1 さとうきび

春植におけるメイチュウ類の防除対策

- a 5月下旬の調査の結果、新植圃場の芯枯茎率は1.3% (前年0.9%、平年1.1%)と平年並であった。
- b ふ化した幼虫は、葉裏および葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせる。
- c 有効分けつ期の芯枯れ防止をねらい、食入初期の幼虫を対象にした薬剤防除を行う。
- d 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

2 マンゴー

果実肥大～成熟期の病害虫防除対策

- a 5月下旬の調査の結果、炭疽病、かいよう病、チャノキイロアザミウマの発生が認められた。
- b 罹病した葉や枝等は施設外へ持ち出し処分し、施設内の通気を良くするとともに袋かけの前に薬剤による防除を徹底する。
- c チャノキイロアザミウマの発生源となる不必要な新梢はビニール袋に入れるなどして、施設外へ持ち出し処分する。
- d チャノキイロアザミウマは水に弱いので、多発園では晴れた日に灌水を兼ねて動噴で洗い流すことも密度を下げるのに有効である。
- e チャノキイロアザミウマは薬剤抵抗性を発達させやすいことから、同系統薬剤の連用をさける。

3 にかうり(施設)

ミナミキイロアザミウマの防除対策

- a 5月下旬の調査の結果、一部地域(豊見城市・八重瀬町)で葉当たり成虫数が0.5頭(平年0.2頭、前年0.08頭)と平年よりやや多かった。
- b 多発すると奇形果を生ずる。
- c 摘芯や摘葉後の残渣は、発生源となるので施設内外に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして密閉処理し、完全に枯れてから処分する。
- d シルバーポリマルチを使用し、入口・天窓・側窓には防虫ネットを張り、成虫の飛来侵入を防ぐ。
- e 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

4 へちま

ミナミキイロアザミウマの防除対策

- a 5月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は1.2頭(前年0.1頭、平年0.2頭)と平年より多かった。
- b 一部圃場で多発生がみられた。
- c 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- d 圃場内外の雑草は発生源となるので除草を行う。
- e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

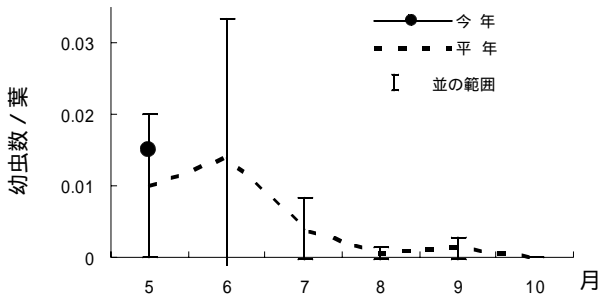
5 オクラ

(1)ハスモンヨトウ

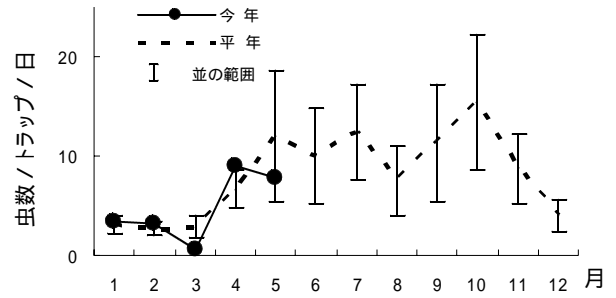
発生程度 : 並

予報の根拠

- 5月下旬の調査の結果、葉当たり幼虫数は0.1頭以下(前年0頭、平年0.1頭以下)と平年並であった。
- 5月のハスモンヨトウ合成性フェロモントラップ調査による1日・1トラップ当たりの誘殺虫数は7.9頭(前年27.1頭、平年12.0頭)と平年並であった。



オクラにおけるハスモンヨトウの発生推移



ハスモンヨトウの誘殺虫数の推移

防除上注意すべき事項

- 本種は卵塊で産卵するので、見つけ次第捕殺する。
- 圃場周辺の雑草は発生源となるので除草を行う。
- 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が落ちるので、早期発見に努め若齢期の段階で防除を徹底する。
- 若齢期の幼虫は葉裏に多いので、薬剤は葉裏にも十分かかるよう散布する。